

光エレクトロニクスのシミュレーション技術 I, II 正誤表

刷	巻,章	頁	場所	誤	正
第1刷 第2刷	I-1	7	図 1.3(b)		
第1刷 第2刷 第3刷	I-2	28	式(2.36)	$f_1(\xi) = \text{Re}[H_1^{(k)}(\xi)e^{i\omega t}]$ $= J_1(\xi)\cos(\omega t) \mp \quad (\omega t)$	$f_1(\xi) = \text{Re}[H_1^{(k)}(\xi)e^{i\omega t}]$ $= J_1(\xi)\cos(\omega t) \mp Y_1(\xi)\sin(\omega t)$
第1刷 第2刷	I-4	60	式(4.18)	$t_p = \frac{n_1}{n_2 + n_2}$	$t_p = \frac{2n_1}{n_1 + n_2}$
第1刷 第2刷	I-4	60	式(4.19)	$t_s = \frac{n_1}{n_1 + n_2}$	$t_s = \frac{2n_1}{n_1 + n_2}$
第1刷	I-11	172	上 1	標準 2 偏差	標準偏差
第1刷 第2刷 第3刷 第4刷	I-12	183	式(12.11)	$B_j = e^{i\phi} E_j^+(d_j) - e^{-i\phi} E_j^-(d_j)$	$B_j = q_j^3 \{ e^{i\phi} E_j^+(d_j) - e^{-i\phi} E_j^-(d_j) \}$
第1刷 第2刷 第3刷 第4刷	I-13	206	図 13.6		
第1刷 第2刷 第3刷 第4刷	I-14	229	脚注を 追加		<sup>†5</sup> 非対称光導波路の場合、 $V$ とコア厚 $2a$ との関係を表す式(14.29), (14.30)では、 $n_1$ の代わりに式(14.36)の $n_3'$ を用いる。

刷	巻,章	頁	場所	誤	正
第1刷	II-20	3	上 11	複合	複号
第1刷	II-20	8	上 5 図 20.3	図 20.3	図 20.4
第1刷 第2刷 第3刷	II-21	45	下 2	図 21.4 の実線	図 21.2 の実線
第1刷 第2刷 第3刷	II-21	49	上 9	固有値 $\beta_2$	固有値 $\beta^2$
第1刷 第2刷 第3刷	II-22	62	上 8	式(22.3)	式(22.6)
第1刷	II-25	107	上 1	図 24.5	図 25.5
第1刷	II-25	107	下 4	図 6(b)	図 25.6(b)
第1刷	II-25	115	上 5	図 14	図 25.14
第1刷 第2刷 第3刷	II-26	121	下 1	図 25.1	図 26.1
第1刷	II-30	231	式番号 (全部)	(16.APn)	(30.APn)
第1刷	II-32	267	上 8	表 1	表 32.1
第1刷	II-32	271	図 11	図 11	図 32.11
第1刷 第2刷 第3刷	II-36	348	図 36.6		
第1刷 第2刷 第3刷	II-36	348	上 3	この例ではオーバーフロー電流は無い。	この例では電流密度の大きい領域でオーバーフロー電流 $J_{\text{overflow}}$ が現れるが、この範囲では無視できる程度に小さい。

刷	巻,章	頁	場所	誤	正
第1刷 第2刷 第3刷	II-36	348	下1	(文を追加)	図で誘導放出光出力(共振器内)を電流密度に換算した $P_{stim}/I_p$ を破線で示した。これは誘導放出の光子数に比例する量である。一方 $J_{stim}$ は誘導放出に寄与する電子数に比例する。低電流密度領域で両者が異なるのは、前節で述べた自然放出光係数の影響による。図からわかるように、発振後は両者はほぼ一致する。

【Macをお使いの方へ】

本書の第1刷～第3刷での付録につきまして、MacではExcelアニメーションが正しく動作しないことがわかりました。申し訳ございませんでした。つきましては、修正版を下記よりダウンロードしていただくと幸いです。なお第4刷以降では修正されています。

[https://www.optronics.co.jp/books/oels\\_appendix/oels\\_appndix.zip](https://www.optronics.co.jp/books/oels_appendix/oels_appndix.zip)